

機関番号：25502

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21792273

研究課題名（和文） 保育園・幼稚園における医療的ケア必要児への支援プログラムの構築

研究課題名（英文） Construction of support program for children requiring medical care in nursery school and kindergarten

研究代表者

空田 朋子（SORATA TOMOKO）

山口県立大学・看護栄養学部看護学科・助教

研究者番号：40382387

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、保育園・幼稚園における医療的ケア必要児支援プログラムの構築に必要な課題を明らかにすることである。保育園・幼稚園に関する医療的ケア必要児の支援ニーズや保育園での医療的ケア必要児への対応の実態を調査した。その結果、医療的ケア必要児の「権利」を保障するために、医療・保健業務に専念できる看護職を確保し、医療的ケア対応拠点保育園を設置する必要があることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：The present study aimed to clarify the problem necessary for the construction of support program in nursery school and kindergarten. I investigated the actual situation of support for children requiring medical care in nursery schools and children's support needs concerning nursery school and kindergarten. The results suggested that we should employ full-time nurses for medical/health duties and establish base nursery schools for medical care in an area to protection of human rights for children requiring medical care.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	200,000	60,000	260,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1,040,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・小児看護学

キーワード：医療的ケア、障害児支援、保育園看護職

1. 研究開始当初の背景

医療的ケアを必要とする子ども達（以下、医療的ケア必要児とする）は、小児在宅医療の推進や医療の進歩により自宅での生活が可能になり地域の中で成長・発達している。現在、全都道府県の特別支援学校へ看護師配置や派遣が実施され、教育機関での医療的ケア必要児への対応が行われているが、地域の一般の学校や保育園・幼稚園における医療的

ケア必要児への対応はあまり進んでいない。2005年、気管切開をした幼児の保育園入園に関する訴訟が起こり、この裁判では「医療的ケア」を理由に保育園入園を拒否した市の対応は裁量権の乱用であるとし、幼児の入園が実現した。このような問題は他の地域でも起こっている。国や自治体は「医療的ケア」の有無が条件ではなく、子ども達が適切な支援が受けられるように早急に取り組む必要が

ある。しかし、特別支援学校に看護師が配置されてから、学校での医療的ケアに関する研究については散見するようになってきたが、医療的ケア必要児の保育園・幼稚園に関する研究はほとんど見当たらない。まずは医療的ケア必要児の保育園・幼稚園利用に関する支援ニーズや保育園・幼稚園における医療的ケア必要児への対応の実態を調査し、乳幼児期の医療的ケア必要児への支援プログラムの構築に必要な課題を明らかにすることが重要である。

2. 研究の目的

本研究は、医療的ケア必要児の保育園・幼稚園利用に関する支援ニーズや保育園・幼稚園における医療的ケア必要児への対応の実態を調査し、医療的ケア必要児への支援プログラムの構築に必要な課題を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 医療的ケア必要児の保育園・幼稚園利用に関するニーズ調査

①対象：医療的ケア必要児を養育する保護者とした。ただし、保育園・幼稚園に関する内容の想起が比較的可能であると思われる小学校までの医療的ケア必要児を養育している保護者と限定した。

②調査方法と調査内容：医療的ケア必要児の診療を行っている小児外来を持つ病院に調査協力を依頼し、対象者の紹介を受けた。対象者である医療的ケア必要児の保護者には、本研究の主旨、方法、倫理的配慮等を説明し、同意の得られた保護者に半構造的面接調査を実施した。保護者の許可が得られた場合は面接内容を録音した。調査項目は、a 保育園・幼稚園入園に関するニーズの有無とその理由、b 保育園・幼稚園の利用状況、c 利用について保護者が感じる支援ニーズ等である。本研究は、山口県立大学の生命倫理委員会の承認を得て実施した。調査期間は、2009年9月～2010年3月である。

③分析方法：面接で得られたデータは、逐語録を作成し、質問項目ごとに内容を整理し分析を行った。

(2) 保育園における医療的ケア必要児への対応の実態調査

前年度の調査結果から、医療的ケア必要児の利用ニーズの高かった保育園のみを対象として調査を行うことにした。

①対象：全国の保育園に勤務する看護職とした。

②調査方法と調査内容：全国保育園保健師看護師連絡会に調査協力を得て、会に所属する保育園看護職に調査を依頼した。また、会に所属していない保育園看護職の抽出は、保育園のホームページ等で検索し、調査協力が

得られた保育園に依頼した。対象者に倫理的配慮を記載した調査依頼文、調査用紙、返信用封筒を送付し、回収方法は、対象者が回答後に返信用封筒に入れて返送する方法とした。返信されたことをもって研究への同意とした。調査項目は、a 基本属性、b 医療的ケア対応の有無、c 医療的ケア対応の実施状況、d 医療的ケアに関する認識である。医療的ケアに関する認識については、「思う」から「思わない」までの5件法で回答を求めた。本研究は、山口県立大学の生命倫理委員会の承認を得て実施した。調査期間は、2010年9月～10月である。

③分析：単純集計及び看護職の認識の比較には、Mann-Whitney U 検定を用いた。すべての有意水準は5%とした。

4. 研究成果

(1) 医療的ケア必要児の保護者の保育園・幼稚園利用に関する支援ニーズ～保護者への面接調査より～

8名の保護者から同意を得られた。

①対象者の背景

保護者が養育する医療的ケア必要児の年齢は1歳11カ月から9歳であった。必要な医療的ケアの種類（複数回答）としては、経管栄養7名、口鼻腔吸引6名、定時的な内服6名、気管内吸引4名であった。

②保育園・幼稚園の利用状況・ニーズ

保育園・幼稚園の利用状況については、「(保育園を)利用していた」1名、「今後利用したい」1名、「(保育園を)利用しなかったが出来なかった」3名、「あきらめていた」1名、「子どもの体調不良で(利用は)難しかった/考えられなかった」2名であり、「あきらめていた」を含めて6名(75%)に保育園の利用ニーズがあった。保育園・幼稚園利用ニーズの理由は、「他児(健常児も含む)との触れ合いなど集団生活の経験をさせたい」が最も多く、次に保護者の「仕事復帰」であった。

③支援ニーズ

保護者の保育園・幼稚園利用に関する支援ニーズとして次の9つのカテゴリーが抽出された。カテゴリーを【 】、保護者の実際の語りを「 」でそれぞれ示した。

利用に関して、「障害児は障害児の専門施設だけ、そこだけとなっている。保育園側も専門施設に行けばいいという態度がある。障害児も保育園などを選べる道があればいい」という【障害児(の保護者)が施設を選べる】ことが求められていた。保育園・幼稚園自体へのニーズとしては、【施設のバリアフリー化】【看護師の配置】【預けられる体制の整備/確立】【小規模少人数制】【子どもの担当を配置】があげられた。また「全部が全部(健常児と)一緒に難しいけど、すぐ交流ができ

たらしいなと思う。健常児とはやはり違うので濃厚なケアができる部屋も（園内に）あるのが理想」という【障害児クラスを設置】というニーズも抽出された。そして、保護者は、専門施設の必要性も感じており【専門施設と保育園を併用】というニーズも抽出された。しかし、一方で「障害児や遅れている子を預かってくれる（専門）施設があればいい」「専門（施設）のところは医療的ケアのある子を受け入れてくれない。安心して預ける場所が必要」という一般の保育園などの施設ではなく、【障害児の専門施設で預かってほしい】というニーズも抽出された。

調査結果から、医療的ケア必要児の保育園の利用ニーズはあるが、【障害児（の保護者）が施設を選べる】ことが保障されておらず、保育園における【施設のバリアフリー化】や【看護師の配置】、【子どもの担当を配置】など【預けられる体制の整備/確立】が求められていることが明らかになった。また、保育園と併用できるような医療的ケア必要児の保護者のニーズを満たす専門施設がまだないことが明らかになった。

(2) 保育園における医療的ケア必要児への対応の実態と保育園看護職の認識～保育園看護職へのアンケート調査～

有効回答数 308 であった。

①対象者の背景

保育園看護職の雇用形態は、常勤 262 名（85.1%）、非常勤 46 名（14.9%）であった。配置状況は、フリー配置 164 名（53.8%）、クラス配置 137 名（44.9%）であり、クラス配置のうち、0 歳児クラス担当が 124 名（90.5%）であった。保育園における看護師配置人数は 1 人配置が 264 名（89.5%）であった。業務内容は、主に「保健業務に専念」と回答した看護職は 67 名（21.8%）で、「保健/保育の兼務」は 223 名（72.6%）であった。

②保育園での医療的ケアの対応

「医療的ケアに対応している」保育園に所属していると回答した看護職は、41 名（13.8%）であった。「医療的ケアに対応している」保育園で実施している医療的ケアの内容（複数回答）は、「坐薬」が最も多く、次に「内服」「導尿」の順であった（表 1）。

表 1 医療的ケアの内容（複数回答）

坐薬	27 件	気管内吸引	3 件
内服	21 件	経管栄養注入	2 件
導尿	9 件	血糖値測定	2 件
吸入	7 件	脈拍測定	1 件
軟膏処置	5 件	人工肛門管理	1 件
口鼻腔吸引	4 件	酸素療法	1 件

また、保育園における医療的ケアの実施者（複数回答）は保育園に配置されている看護職が多く、医療的ケア担当看護師を配置している園は 4 件であった（表 2）。

表 2 医療的ケアの実施者（複数回答）

保育園の看護職（看護師・保健師）	36 件
保育士 *全て看護師と共に実施	5 件
医療的ケア担当看護師	4 件
保護者	4 件
本人（保護者等の見守りのもと）	2 件
訪問看護師	1 件

③医療的ケアに関する看護職の認識

保育園における医療的ケアに関して、現在の医療的ケア実施の有無に関わらず、「医療的ケアが必要な子どもが保育園への入園を希望されている場合」と仮定し、5 件法（1. 思わない、2. あまり思わない、3. どちらともいえない、4. 少し思う、5. 思う）による質問をした。結果を図 1 に示す。保育園での医療的ケアへの対応の必要性（対応必要度）について、「思う」「少し思う」と回答したのは 68.5%で、看護職の約 7 割が対応の必要性を感じていた。その理由を自由記載で求めたところ、「どのような子ども（保育を受ける）権利がある」という回答が多くみられた。一方、現在の保育園で医療的ケアの対応が可能か（対応可能度）について、「思う」「少し思う」と回答したのは 26%であり、「思わない」「あまり思わない」という回答が 40.3%であった。その理由として、「看護師が一人配置で対応が出来ない」や「人員が不足している」という意見が多かった。看護職は、保育園における医療的ケアへの対応の必要性を感じつつも、現実には今の保育園での対応が困難であると認識していることが分かった。

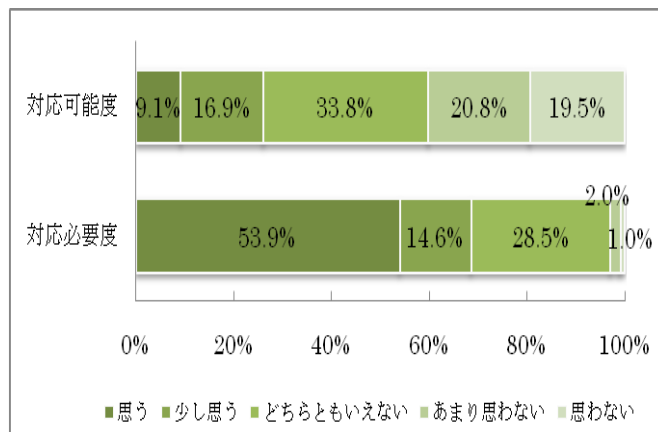


図 1 看護職の認識

④医療的ケアに関する看護職の認識の比較

a. 看護職配置状況別

看護職の認識を得点化し、配置状況別で「フリー配置」群と「クラス配置」群の2群に分けて比較すると、フリー配置群の看護職の方が有意に「医療的ケアの対応が可能」と認識していた ($p < 0.05$)。

b. 看護職業務内容別

看護職の認識を得点化し、業務内容別で「保健業務」群と「保健/保育の兼務」群の2群に分けて比較すると、保健業務群の看護職の方が有意に「医療的ケアの対応が可能」と認識していた ($p < 0.05$)。

看護職の認識の比較結果から、保育園で医療的ケアの対応を可能にするためには、フリー配置で保健業務に専念できる看護職が必要であることが示唆された。

⑤医療的ケア対応に必要な体制

保育園で医療的ケアに対応するために必要と思う体制について尋ねたところ(複数回答)、「医療機関・専門機関との連携」が最も多く、288名(94.1%)が必要と感じていた。次に、「看護師の研修」250名(81.7%)、「担当看護師の配置」237名(77.7%)、「保育士の研修」237名(77.7%)、「バリアフリー化」218名(71.2%)の順であった。この結果から、保育園の看護職は、医療機関や専門機関との連携の必要性を高く感じており、児の医療的ケアに関する知識や技術を身につける研修を望んでいる状況が伺えた。また、保育園として児を預かる上で、担当看護師の配置だけでなく、保育士に対しても医療的ケアに関する研修をしてほしいという意識があることが分かった。

(3)医療的ケア必要児支援プログラム構築への課題

本研究の調査結果により、保育園・幼稚園における医療的ケア必要児への支援プログラム構築には、次の事項が課題として明らかになった。

①権利を保障する体制の確立

医療的ケア必要児の保護者のニーズとして保育園の利用ニーズがあり、そのためには【障害児(の保護者)が施設を選べる】ことを保障することが求められていた。また、支援する側の立場である保育園看護職の約7割は、保育園での医療的ケアの対応の必要性を感じており、その理由として「子どもの権利」をあげている。今回の調査結果からも、各自治体はその地域子ども達に対して「医療的ケア」の有無が条件ではなく、保育園が利用できる「権利」を保障する体制を確立する必要があることが明らかになった。しかし、自治体の保育園においては、多くの待機児童を抱える問題も起こっているのが現状である。

医療的ケア必要児の保護者は、「選べる」ことを望んでおり、全ての医療的ケア必要児が保育園の入園を選ぶとは限らない。今回の調査からも【障害児の専門施設で預かってほしい】という保護者の支援ニーズがあり、児を取り巻く環境や児の健康状態などにより、その児にとっての必要な支援は異なってくる。地域で生活する医療的ケア必要児が、保育園や専門施設などの中から家族の状況や児の希望にあった施設を「選べる」体制をまず作ることが必要である。そのためには、地域の中で看護職などの医療スタッフを重点的に多く配置し、医療的ケアが必要な子ども達の受け入れにも対応出来る拠点保育園を各自自治体でいくつか設けることが重要である。そして、各自自治体は児が適切な支援が受けられるように、医療的ケア必要児の家族の相談役になり第三者の立場で施設側との調整を行ってくれるコーディネーターを配置する必要がある。また、医療的ケア対応拠点保育園が医療機関・専門機関との連携がスムーズに取れるように、各自自治体は医療的ケアネットワーク体制を確立していかなければいけない。

②看護職の確保と看護職の勤務条件の設定

医療的ケア必要児にとって、必要なケアを実施してくれる看護職の確保が重要である。医療的ケア必要児の保護者の支援ニーズとしても【看護師の配置】があげられている。また、保育園の看護職の調査結果からも77.7%の看護職が医療的ケアに対応するためには「担当看護師の配置」が必要と感じていた。保育園の看護職は、現在、保育所設置基準における乳児保育に関する通達によって、保育士定数内で配置されている看護職も多く、今回の調査結果でも72.6%の看護職が園の保健業務だけでなく保育業務を兼務していることが明らかになっている。このように園全体の子どもの健康支援を行っている上に、医療的ケア必要児への対応を看護職一人で行うのは不可能であるため、適切な人員配置を行う必要があると考えられる。そして、ただ看護職を保育園に配置すればいいのではなく、保育園の中でフリーの立場で医療的ケアに対応でき、園の医療・保健業務に専念出来る看護職を配置する必要がある。そして、保育園における看護職確保としては全て「配置」という方法だけでなく、訪問看護制度を利用し、居宅ではない場所での訪問看護を柔軟に行えるシステムを作り、保育園での医療的ケア対応という課題に取り組んでいくことも重要と考える。

(4)今後の課題と展望

本研究により、医療的ケア必要児が保育園や専門施設の中から施設を選べる「権利」を保障する体制を構築する必要があることが

明らかになった。今後、特別支援学校への看護師配置・派遣システムが確立されたように、各自治体で医療スタッフを重点的に配置した医療的ケア対応拠点保育園を設置・整備し、医療的ケア必要児の受け入れをモデル事業として取り組んでいくことが必要である。また、特別支援学校では教員が許容される行為の標準的範囲内のケアを実施しており、医療的ケア必要児への対応は教員と看護師の協働で行っている。今回の保育園看護職の調査結果から、看護職は、保育園で医療的ケアに対応するためには「看護師の研修」だけでなく「保育士の研修」も必要と認識していた。保育園においても特別支援学校のように、それぞれの専門職が協働して医療的ケア必要児に対応していくことが求められると考える。保育士が子どもの健康管理の一環として医療的ケアについての知識を持ち、許容されるケアの実施を担うことも、今後検討していく必要があると思われる。そのためには看護師だけでなく、保育士への教育プログラムを作成し、教育・研修体制を確立する必要がある。そして、国は保育士が実施する許容される行為を明確に示す必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

空田朋子、医療的ケアが必要な子どもの保育園・幼稚園の利用ニーズについて、第57回日本小児保健学会、2010年9月18日、新潟市

6. 研究組織

(1) 研究代表者

空田 朋子 (SORATA TOMOKO)

山口県立大学・看護栄養学部・助教

研究者番号：40382387